東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ　**70**: 23－30，2019.

中国南京市の小学生の食生活の実態

李　　暁　純*1・池　﨑　喜美恵*2

家庭科教育学分野

（2018年9月21日受理）

1．緒言

近年，中国では，飲食知識が足りないため，生活習慣病が起こっていること[1]や，小中学生の食事と栄養状況が好ましくないこと[2]，また，飲食習慣が望ましくないこと[3]が明らかになり，教育現場における飲食教育の必要性が求められてきた。

中国の小学校では家庭科という授業は設置されていない。しかし，江蘇省南京市の小学校には授業科目として，「労働と技術」が設置され，教科書には「家政」という内容が含まれている。2017年の夏から，新しい教科書が編纂され，「家政」の内容も更新されている。このような変容をみると，「家政」の内容は次第に重視されてきていると言えるだろう。

本研究では，南京市の小学生の食生活の実態に焦点を当てて報告する。また，本研究の中で使用している「食」は中国語では「飲食」を意味し，ここでの食生活は中国の飲食生活を指している。

2．先行研究

陸は2003年から，学校で食生活の内容を教える研究を始め，学校での「科学飲食」の課程が必要だと提唱した[4]。そして，2004年に，小中学校での「健康飲食」授業のテキストについて論文を発表した[5]。また，2005年，小学校には積極的に「健康飲食」課程を設置し，「健康飲食」課程を計画的に施行すべきであると指摘した[6]。2010年，陸と上海の小学校の校長が中国の小学校で初めて，小学校飲食栄養教育教材を使用して，「小学飲食栄養教育」の開発と実施について，論文を発表した[7]。このように，中国国内でも，飲食教育の必要性が問われるようになってきた。

皮・赤松は中国では，子どもに対する食生活に関する教育は，学校教育ではあまり行われていないが，近年限られた東部地域では食知識についての教育が始まっていることを明らかにした。また，中国の飲食教育は食知識，食品安全意識，食品の選択などの向上を目指すと考えられており，義務教育段階の素質教育に組み込もうとする傾向が見られ，栄養，健康及び社会の食品安全状況などを考えると，飲食教育を全面的に実施・推進する必要性があると述べている[8]。また，中国版の食育の発端は小学校における飲食教育であり，学校での食育指導は理論的な知識と実践的な活動のつながりを考えながら，体験的な活動を授業に取り入れることを提言している[9]。

2014年，魏・貴志は中国の家政教育に焦点を当て，中国の「総合実践活動」の内容の一部に「家政」の項目があり，家庭生活に目を向け，生活と社会のつながりを考えさせる内容がおかれているということを明らかにした[10]。また，調査した浙江省の大成小学校では「総合実践活動」の時間と「学校裁量時間」を利用して，6年一貫の「家政教育」を実践していることは，中国の小学校の中で希有な取り組みともいえるが，その一方，制度の枠を活用したカリキュラムの編成は，中国の小学校において家政教育普及の可能性があることを示唆していると述べている[11]。

以上の先行研究から，家政教育や食生活の内容を学校教育に取り入れることが可能であり，これからの学

＊1　東京学芸大学大学院 教育学研究科
＊2　東京学芸大学 生活科学講座 家庭科教育学分野（184-8501　小金井市貫井北町 4-1-1）

校教育で求められている重要な内容でもあると考えられる。

３．研究目的

江蘇省南京市の小学校には日本の家庭科に類似している授業科目として，「労働と技術」が設置されている。「労働と技術」には「家政」という内容が入っている。本研究では，中国江蘇省南京市の小学生の食生活の実態を明らかにし，「家政」の学習内容を再検討するための資料とすることを目的とした。

４．研究方法

４．１　調査対象地域と調査校

南京市は中国の東部に位置し，江蘇省の省都であり，政治，経済，文化の中心である。長い歴史を持ち，世界遺産に登録されている明孝陵をはじめとした様々な観光地があり，中国４大古都の一つである。また，全国の重要な科学研究教育基地と総合的交通の要衝でもある。

今回の調査対象は中国江蘇省南京市の公立小学校の５，６年生である。調査対象校の公立小学校３校には，「労働と技術」の授業が３年生からおかれ，３年生ではその学習内容として「紙工」（紙を折ったり，切ったりすること）を扱っている。「家政」の内容は４年生から６年生に組み込まれている。

４．２　調査時期と方法

2018年１月に小学校の先生と友人を介して依頼し，調査協力を得た。１～２月にかけて，担任宛に調査用紙を送付し，小学校５，６年生865名を対象にアンケート調査を実施した。記入後，日本へ返送してもらった。

４．３　調査内容

調査内容は食習慣，調理用具と調理方法，食に関する知識，家事への参加意欲，「労働と技術」の授業に対するイメージなどである。

５．結果及び考察

５．１　食習慣

食習慣については，朝食の摂取状況，平日の昼ごはんを食べる場所，夕飯を食べる相手，間食，好き嫌い，食生活の自己評価などを質問した。

朝食の摂取状況については，毎日朝食を食べている子どもは約89%，食べていない子どもは約１％であった。この結果から，南京市の小学生の朝食の摂取状況は良好であることが分かった。平日の昼ごはんを食べる場所については，約93%の子どもたちが学校の食堂を利用したり，弁当を持参したりしている。夕飯を１人で食べた子どもは約３％で，ほとんどの子どもは親や祖父母と食べている。間食の好みについて，「クッキー・ケーキ・チョコレート・キャンディー・清涼飲料水・牛乳やヨーグルト・果物・アイスクリーム・他」から子どもに複数回答させた結果，５，６年生ともに「牛乳やヨーグルト，果物，アイスクリーム」を上位三位にあげた。「食べ物の好き嫌いがあるか」について，５，６年生ともに「あまりない」と回答した子どもは約60%であった。また，「自分の食生活は健康ですか」の質問について，約94%の子どもは自分の食生活は健康だと回答した。「とてもそう思う」と回答した５年生は44.2%に対して，６年生は34.5%であった。６年生より，５年生のほうが自分の食生活の現状の評価が高かった。

５．２　調理用具と調理方法

調理用具の使用経験と使い方，調理方法をどこで習ったか，調理手順などについて質問した。

調理用具について，「包丁・まな板・ピーラー・フライパン・鍋・泡立て器・しゃもじ・玉じゃくし・フライ返し・炊飯器・電子レンジ・コンロ」の使用経験の有無を質問した。図１に示すように，泡立て器以外は多くの子どもが使用経験を有していた。５年生のみコンロの使用経験ありと回答したものが半数にとどかなかった。「包丁・まな板・ピーラー・フライパン・鍋・泡立て器・フライ返し・炊飯器・電子レンジ・コンロ」の使用経験は，５年生より６年生のほうが有意に高い結果となった。６年生は「労働と技術」の授業で調理に関する内容を教わっており，宿題として，家での調理実践があったということが考えられる。

調理方法はどこで習いましたかと質問したところ，図２に示すように，６割以上の子どもが調理方法は家で習ったと回答した。しかし，５年生は授業でも家でも習っていない割合が６年生より多かった。また，６年生は５年生より，学校で習ったことが有意に多かった。これは「労働と技術」の授業で食に関する内容を学習するのは６年生の第一学期であることが要因であると考えられる。５年生は「労働と技術」の授業で学習していないが，「調理方法はどこで習いましたか」について，「学校」と「どちらもある」と回答したこ

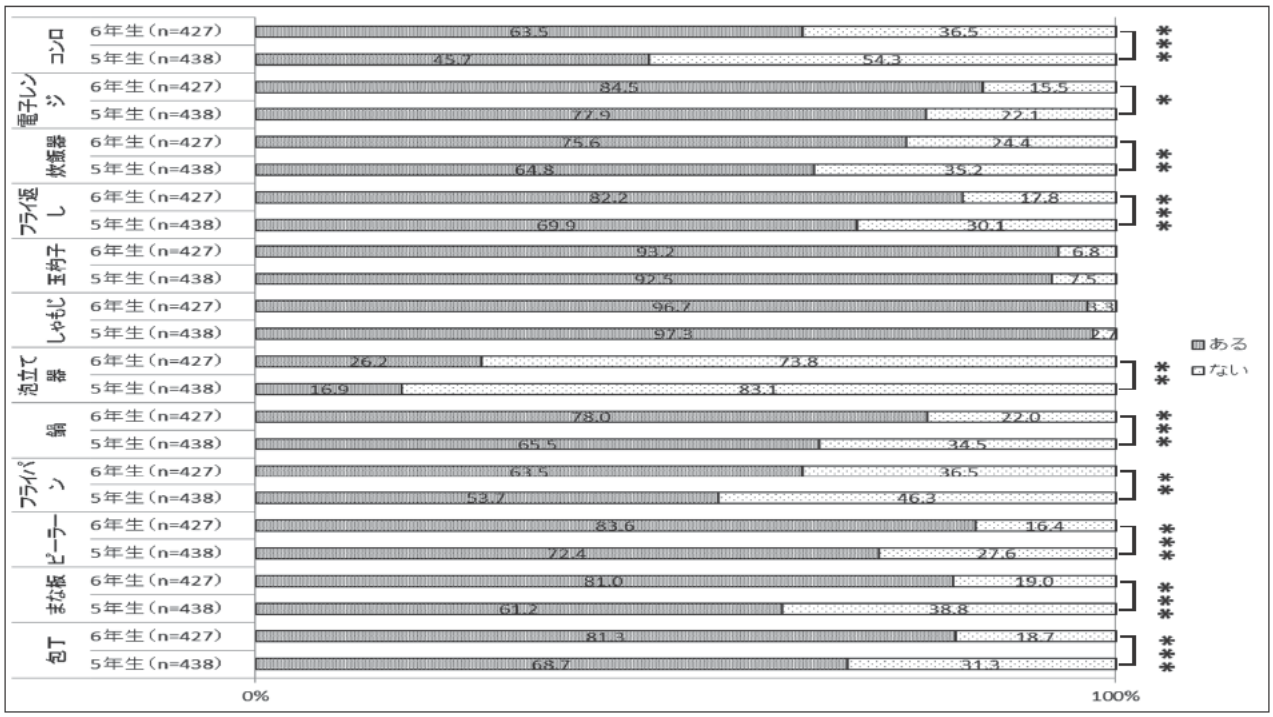

図１　調理用具の使用経験（χ^2検定　*** p<.001, ** p<.01,* p<.05）

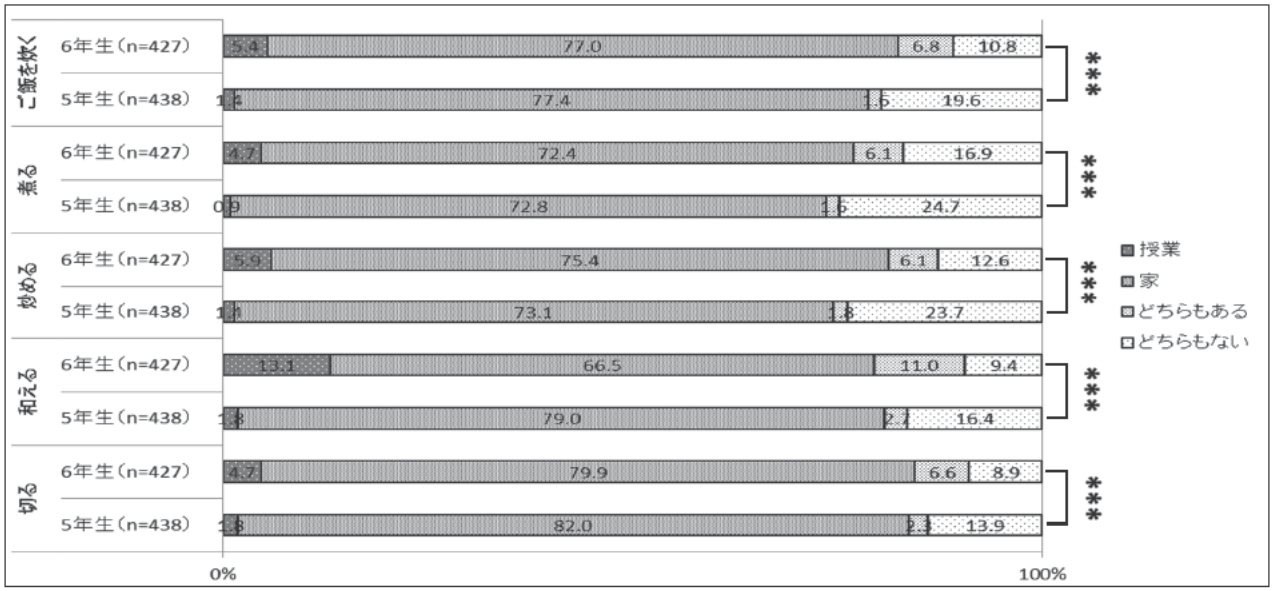

図２　調理方法はどこで習った（χ^2検定　*** p<.001）

との要因としては，学校の他の授業（例えば特色課程や総合実践活動など）で調理方法を学習したのではないかと推測する。また，６年生は「労働と技術」の授業で調理方法を学習したにもかかわらず，「学校」と「どちらもある」と回答した子どもが少ない。それは，授業での実践があまりないため，学校から調理方法を学習したというイメージが薄いからであると考えられる。

「包丁の使い方」について，図３に示すように，正しく回答した５年生は43.4％，６年生は57.4％で，６年生のほうが正答率が有意に高かった。これは「労働と技術」の教科書に包丁の使い方が載っており，子どもたちが授業で習ったためであると思う。また，「包丁とまな板の置き方」について，正しく回答した５・６年生はとともに５割以上の結果であった。

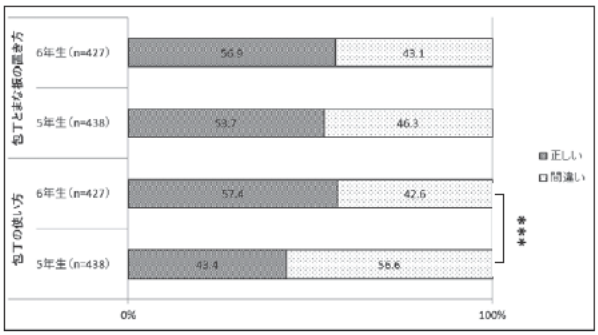

図３　「包丁の使い方」と「包丁とまな板の置き方」
（χ^2検定　*** p<.001）

写真１　燻製豆腐とセロリの炒めもの

写真１は６年生の『労働と技術』の教科書（注１）に掲載されている燻製豆腐とセロリの炒めものの調理手順である。それについて質問したところ，５年生の正答率は22.8％，６年生の正答率は27.4％であった。５，６年生の正答率がともに３割以下であったことから，子どもたちが調理手順について，十分理解しているとは言い難いと考えられる。調理方法を学ぶ場所は前述のように，６割以上の子どもが家と回答したが，調理手順は家で教えられていないことが推測された。また，学校の授業で習ったとしても，６年生の正答率は３割以下であり，授業で習った調理手順の知識の定着度が低いことが分かった。

５．３　食に関する知識

膳食宝塔，食物の働きと摂取後の体の中での働き，栄養・食品・調理などの知識の習得手段について質問した。

写真２　中国居民平衡膳食宝塔（2016）

写真２は６年の「労働と技術」の教科書（注２）に掲載されている中国居民平衡膳食宝塔である。これを子どもに並べさせたところ，正しく答えられた５年生は21.7％で，６年生は37.0％であり，正答率は６年生のほうが有意に高かった。

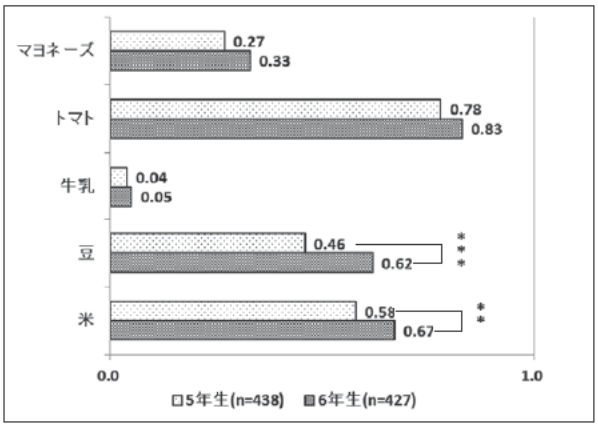

図４　食物に主に含まれる栄養素（正答率）
（t検定　*** p< .001, ** p< .01）

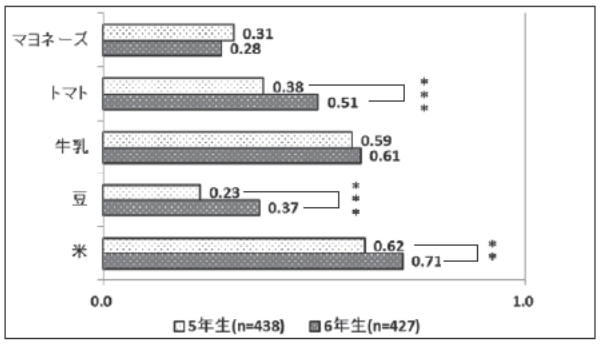

図５　食物を摂取後主な働き（正答率）
（t検定　*** p< .001, ** p< .01）

「米・豆・牛乳・トマト・マヨネーズ」に主に含まれる栄養素を五大栄養素から選択させ，さらに，それらの主な働きを三つの働きから選択させた。子どもたちの回答を，正しい回答には１点，誤った回答には0点として点数化し，ｔ検定を行った。その結果は図４と図５に示すように，食物に主に含まれる栄養素については，「米・豆」の２項目で，主な働きについては，「米・豆・トマト」の３項目で，６年生の正答率は５年生より有意に高かった。

栄養・食品・料理の知識の習得手段を複数回答で質問したところ，図６のようになった。５年生では「家族」，６年生では「家族・インターネット・テレビ・学校の授業」の項目を５割以上の子どもが選択した。「学校の授業」を選んだ５年生は35.9％に対して，６年生は52.3％であり，食物の内容を６年第一学期の「家政」で学習したからだと思われる。

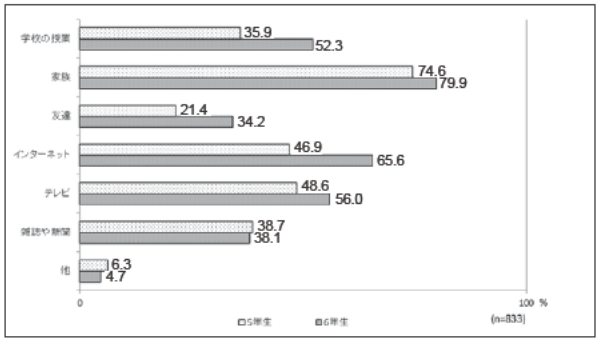

図６　栄養・食品・料理の知識の習得手段

５．４　家事への参加意欲

家で家事を手伝う頻度，手伝う理由，食に関する家事を手伝う内容，料理や食材の買い物をする意欲を尋ねた。

家事を手伝う頻度については，家事の手伝いを「よくする・する」と回答した男子は78.0％，女子は88.6％であった。男女とも家事への参加意欲が高く，女子の方が有意に高い結果となった。

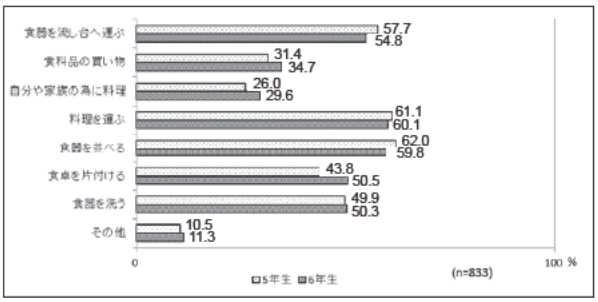

図７　食生活に関する家事の手伝い状況

図７に示すように，食生活に関してはどんな手伝いをするかを尋ねたところ，５年生の６割が「食器を並べる・料理を運ぶ・食器を流し台へ運ぶ」，６年生の５割が「料理を運ぶ・食器を並べる・食器を流し台へ運ぶ・食卓を片付ける・食器を洗う」と回答した。６年生の方が多様な食生活に関する家事の手伝いをしていたことが分かった。

５．５　「労働と技術」の授業に対するイメージ

「労働と技術」の授業内容のうち，「家政」の内容が「とても好き・好き」と回答した５年生は76.1％，６年生は68.6％であった。結果から，６年生より５年生のほうが「家政」の学習内容が好きであることが明らかになった。

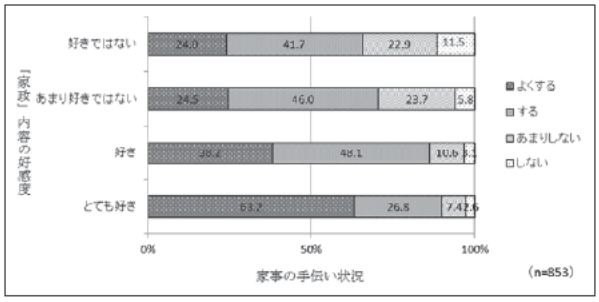

図８「家政」内容の好感度と家事を手伝う状況
（χ^2=102.43　df=9　p<.001）

また，「家政」の内容の好感度と家事を手伝う状況をクロスした結果は図８に示すように，「家政」が好きと回答した子どもは家事の手伝いをよくすることが分かった。

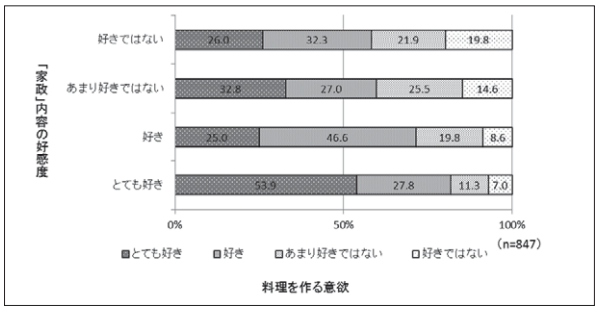

図９　「家政」内容の好感度と料理を作る意欲
（χ^2=82.02　df=9　p<.001）

さらに，「家政」内容の好感度と料理を作る意欲をクロスした結果は，図９に示すように，「家政」内容が好きと回答した子どもは料理を作る意欲が高いことが明らかになった。

「労働と技術」の学習が将来役立つかについて，４段階で回答させた。「とてもそう思う・そう思う」と回答した５年生は92.1％，６年生は86.8％であり，５年生の方が役立ち感を肯定していた。６年生は進学のため，受験科目を重視し，進学科目ではない「労働と技術」の授業に対しては役立ち感が希薄になってしまっていた。しかし，将来の生活の自立のためには生活の知識や技能を習得しておくことは必要であるので，子どもたちに受験科目でなくても学習の重要性を認識させる手立てを工夫する必要がある。

６．まとめ

1）　食生活の実態については，南京市の小学生の朝食摂取状況は良好であり，多くの子どもが自分の食生活が健康であると評価した。
2）　調理手順の正答率が３割以下で，調理手順の理解が不十分であることは，調理の手順を学ぶ実践的な活動を導入したりすることが必要であると考えられる。
3）　食に関する知識の回答について，学習した６年生は未学習の５年生より正答率が高く，学習した効果があると言えるだろう。
4）　子どもは家事への参加意欲が高いこと，６年生の方が多様な食生活に関する家事の手伝いをしていることが明らかになった。また，「家政」の内容の好感度が高い子どもは，家事の手伝いや料理を作る意欲が高いことが判明した。
5）「労働と技術」の授業に対する意識では，「家政」の学習内容が好きと回答した子どもが多く，「労働と技術」の学習の役立ち感を肯定していた。

以上のことから，生活の知識や技能は子どもたちの健康に密接に関連するにもかかわらず，子どもたちの食生活に関する知識や技能，実践度は低率である。したがって，既存の授業の中に組み込みながら，指導をより充実して行くことが必要であると考える。

７．今後の課題

子どもの調理手順や栄養知識の定着度が低いことが現状であり，その原因を探るには，実際に学校の授業では，先生たちがどのように食知識を子どもに教えているのかを明らかにする必要があると考える。そのため，現場での授業実践を参観したり，教師へのヒアリングをする必要があると思う。

また，知識を定着するには，授業における実践的な活動も取り入れるべきである。そのため，南京市の小学校の食生活に関する実践的活動の取り組み状況を調査し，「労働と技術」の授業に取り入れる可能性を検討することを考えている。

謝辞

本研究にご協力いただいた南京市小学校の教師及び小学生の皆様に深く感謝いたします。

本研究の一部を第61回日本家庭科教育学会大会（2018年７月）においてポスターセッションで発表した。

参考文献

1）　陆少明：静安区中小学生“健康饮食”现状调查．上海教育科研．p45-47，2005
2）　胡永桢，孙桂菊，罗海燕，杨瑾，王少康，谢莹，徐华珠，陈国威，圣军厉：南京市中小学生膳食与营养状况调查．中国学校卫生．p891-892，2005
3）　张佳宁，陈长香，邢琰：小学生不良饮食习惯现状调查．中华现代护理杂志．第14卷第30期．p3172-3173，2008
4）　陆少明：论学校开设“科学饮食”课程．现代中小学教育．p20-22，2003
5）　陆少明：中小学“健康饮食”校本课程实施方案．现代中小学教育．p6-8，2004
6）　陆少明：前掲論文１）
7）　陆少明：“小学饮食营养教育”校本课程的开发与实施．现代中小学教育．p15-19，2010
8）　皮文昊・赤松純子：中国における飲食教育への提言―日本における食育と比較して―．和歌山大学教育学部教育

実践総合センター紀要．p85-93，2014
9） 皮文昊・赤松純子：小学校における食に関する教育―日本の「食育」と中国の「飲食教育」を中心に―．和歌山大学学芸学会．学芸61．p139-141，2015
10）魏暁敏・貴志倫子：「総合実践活動」の教科書分析から見た中国の小学校における家政教育．福岡教育大学紀要．第63号第５分冊．p181-189，2014
11）貴志倫子・魏暁敏：中国「総合実践活動」における家政教育―浙江省大成小学校の取り組み―．日本家庭科教育学会誌．第57巻．第４号．p302-310，2015

注１『労働と技術』の教科書（江蘇省鳳凰科学技術出版社），2017年５月発行，p13-14

注２『労働と技術』の教科書（江蘇省鳳凰科学技術出版社），2017年５月発行，p7

中国南京市の小学生の食生活の実態

The actual dietary practices of elementary school students in Nanjing, China

李　　暁　純*[1]・池　﨑　喜美恵*[2]

Xiaochun LI and Kimie IKEZAKI

家庭科教育学分野

Abstract

The aims of this study were to determine the actual dietary practices of elementary school students in Nanjing, China, and discuss and reexamine the content of home economics instruction. We administered a questionnaire survey to fifth- and sixth-grade students at three public elementary schools in Nanjing.

The students had breakfast regularly and many of them indicated that their dietary habits were healthy. The accuracy rates on cooking procedures were less than 30% for both fifth- and sixth-grade students, and the students' levels of understanding of cooking procedures were insufficient. With regard to knowledge of healthy dietary habits, it was found that there was a learned effect in the sixth-grade students, whose correct answer rates were higher compared with the fifth-grade students. Results revealed that students were motivated to participate in household chores and that the sixth-grade students helped perform housework that involved the understanding of diverse dietary habits. Many of the students who had taken labor and technology classes responded that they liked the content of home economics affirming the sense of usefulness of learning the labor and technology lessons.

Keywords: China, elementary school students, dietary practices, labor and technology lessons

Department of Home Economics, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨:　本研究は江蘇省南京市の小学生の食生活の実態を明らかにし,「家政」の学習内容を再検討するための資料とすることを目的とした。研究方法は, 南京市の公立小学校３校の５・６年生の子どもを対象にアンケート調査を実施した。

南京市の小学生の朝食摂取状況は良好であり, 多くの子どもが自分の飲食生活が健康であると評価した。５・６年生の調理手順の正答率がともに３割以下であり, 調理手順の理解が不十分であった。飲食に関する知識の回答について, 学習した６年生は未学習の５年生より正答率が高いことから, 学習した効果があることが分かった。子どもは家事への参加意欲が高いこと, ６年生の方が多様な食生活に関する家事の手伝いをしていることが明らかになった。「労働と技術」の授業に対する意識では,「家政」の学習内容が好きと回答した子どもが多く,「労働と技術」の学習の役立ち感を肯定していた。

キーワード: 中国, 小学生, 食生活,「労働と技術」の授業

*1　Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University
*2　Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)